

# 工学部だより

2021.3

No.26



旧米沢高等工業学校本館(国の重要文化財)と開校当時(明治43年)の囲障を再現する形で改修された石塀(令和元年改修)

## 目 次

山形大学工学部 新春特別対談	2	令和2年度卒業・修了予定者の就職状況	15
工学部の歩み -コロナ禍にあって-	6	キャリアサポート室だより	16
学務委員会だより	7	就職活動と後輩へのアドバイス	16
教務委員会だより	7	山形大学工学部後援会会則	17
学生相談室だより	7	令和元年度一般会計収支決算書及び 令和2年度一般会計収支予算書	17
山形の未来を切り開け!	8	山形大学工学部保護者懇談会 今年度(2020年度)実施報告と 来年度(2021年度)開催予定	18
この一年を振り返って	8	お知らせ	18
学生による留学体験談	8	令和3年度工学部年間予定表・後援会通信	18
学科(専攻)だより	9		
保護者懇談会をオンラインで開催しました!	13		
令和2年度卒業・修了予定者の就職内定・ 進学予定先一覧	14		



# 「今と向き合い、 新たな時代を共に拓こう」 山形大学工学部 新春特別対談

新たな年を迎え、新型コロナウイルスの感染予防対策に力を尽くしてきた一年の状況と、今後にかかる期待についてお話いただきました。



工学部長  
中島 健介

1990年長岡技術科学大学大学院博士後期課程修了。1981年より長岡技術科学大学勤務(教務職員、助手)。1991年東北大学電気通信研究所(助手、助教授)、2003年弘前大学理工学部勤務(教授)。山形大学工学部には2007年に山形大学大学院理工学研究科教授として赴任。2015年工学部副学部長を経て、現在に至る。専門は超伝導電子デバイス、電子材料



工学部副学部長  
落合 文吾

2001年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了。1998年日本学術振興会特別研究員、2001年住商バイオサイエンス株式会社勤務。山形大学工学部には2003年に山形大学工学部機能高分子工学科助手として赴任。2007年大学院理工学研究科助教、2008年同准教授、2013年同教授、2015年工学部副学部長(教育担当)を経て、現在に至る。専門は高分子化学、有機化学

## ◆次なる百年を切り拓く、 高度専門人材の育成を目指して

**長谷部** 今年度、理工学研究科長・工学部長に中島健介先生が就任されました。学部長になられてのお気持ちや抱負などお聞かせください。

**中島** 昨年は新型コロナウイルスの状況から、3月の卒業式、そして入学式も中止となり、慌ただしいスタートになってしまいました。しかし、よりよい学生生活を送ってもらうために、日々の様々な心配事を相談できる「米沢キャンパス総合支援センター」の準備を進めていたことで、4月には運営ができ、コロナ禍による悩みも対応することができ、良かったと思っています。

大学の運営では、国全体の課題でもある教員の高齢化が問題視されていました。そこでバラエティに富んだ優秀な若い人材を雇用し、現在いらっしゃる先生方のバイタリティーを活かしながら、学部や大学院の活性化をするべく、先生方の人事にも力を尽くしたいと思っています。

それから工学部はキャンパスに収まりきれないくらい研究が活発となり、米沢市のオフィス・アルカディアに「有機材料システム研究推進本部有機エレクトロニクスイノベーションセンター」を開設、10年近くにわたり研究を進めております。今後もその活力を維持するため、現在地方創生に力点をのいた国の「共創の場」としてのプログラム申請を行っています。昨年は工学部創立110周年の年でした。有機エレクトロニクスの研究を柱とし、他の分野の研究も含め、次なる100年を見据えた基盤づくりをしていきたいと考えています。

## ◆進むオンライン授業の現状

**長谷部** 現在の大学の状況について教えてください。

**落合** 昨年はオンライン化が進んだことが学生・教員にとって、大きな転機の年となりました。私たちが初めてのことで、4～5月はコロナ対策をしながら模索し、ずっと授業の準備ばかりしていました。各教員が連携をするようになり、どうしたらこの限られた中で分かりやすい教育ができるのか考えたのです。現在はネット上の学習システムWebClassという仕組みを使っています。資料を配布しておき、学生ごとにログインします。これまでの授業に近い形で学習できるようになりました。教員も分かりやすい資料をまとめたり、アニメーションを加えたり、配信型の授業に切り替えるなどそれぞれ工夫を続けたことで、学生からは

「教室で受ける授業より分かりやすかった」という声もありました。また、これまで授業中発言しなかった学生も、チャット上ではたくさんの反応がありました。オンラインでは参加型の授業を行うことができたのです。それから人が苦手という方や、体調に不安のある学生さんも、自宅でしっかり学習できたようです。

前期の授業についてアンケートをとると、ちゃんと授業ができたと多くの学生が教えてくれました。しかし正直なところを聞くと、やはり実験ができなかったのが非常に残念だったと言われ、対面型授業の重要性も見えてきました。また一日中パソコンやスマートフォンに向かい、目や肩が疲れるという声もありました。オンライン形式の授業では、課題で中身を保証しなければならないことになっており、課題が増え、昼夜逆転する学生も出てしまいました。後期はそれらの経験を活かし、早めに実験を進め、12月までにほぼカリキュラムが終えられるようにしたのです。一部の授業はオンラインと併用で、学生が選択できるようにしました。私の授業では、2割がオンライン、8割は教室でという状況です。今後もより良い教育が提供できるようレベルアップしていきます。

**長谷部** 前期は入学式もできず、新入生や、小白川キャンパスから移動した2年生は戸惑ったのではないのでしょうか。どのような対応をされましたか？

**落合** 人の移動が制限され、私たちも非常に悩みました。昨年の3月末頃からコロナ総合対策本部を設け、会議を繰り返しています。感染状況が落ち着いてきた6月頃に十分な感染対策を行った上で登校日を設定し、そこで初めていろいろな話ことができました。学生の中には入学前からラインのグループを作り、会う前から友達になっていたという学生もいたようですね。1年生に限らず人となかなか会えない、話せないというのがストレスだったようです。







## ◆学生への支援

**長谷部** OB会である米沢工業会も、コロナ禍によつて諸活動が中止になっていると伺っておりました。状況など教えてください。

**上村** 具体的に工業会の目的は大きく「母校の教育・研究の支援」と「地域の科学技術振興の助成」の2つがあります。母校の支援では国際学会発表の助成が大きいのですが、今年度はコロナ禍のために一部国内で行われたものもありますが、海外は渡航禁止でほとんど開催されませんでした。そこで今年度は奨学生の募集を行い、留学生の修学支援をおこなっています。もう一つ活動の柱として会員の親睦があげられるのですが、外出と会食の自粛が求められ支部総会が開催できませんでした。その中11月に東海支部と関西支部をオンラインで開催しました。しかし会って話したいという要望は多く、一日も早く新型コロナが収まってほしいと願っております。

**長谷部** 奨学金制度を工業会として用意されていますが、学校でも何か対応されていたりするのですか？

**落合** 「学びの継続給付金」という補助金や、山形大学基金からの奨学金があります。しかしそれも限りがあるということで、寄附の呼びかけをさせていただきました。その際には工業会には非常に良く動いていただき、工学部関連の方が最も多くご協力していただきました。おかげ様で希望した学生に奨学金を渡すことができました。さらに最近生協で使えるプリペイドのポイントを補助したり、工学部独自で奨学金を用意するなど検討を続けています。後援会にはモバイルルータの貸し出し資金もいただきました。まだ不足しているという方がいらっしゃいましたら、我々もできる限りの対応をしたいと思っていますので、学務課学生

支援担当へ相談をお願いします。

## ◆就職、進学。 希望を持って掴む未来

**長谷部** 就職や進学の状況はどうでしょうか。

**落合** 就職活動は、やはり3、4、5月ごろの採用活動がほとんど止まっていたので、その頃は半分ほどでした。しかし現在は例年の9割まで回復しています。昨年度の採用状況があまりにも良かったので、平年並みという所です。

**中島** 大学院は改組の申請の影響によって入試の進行が遅れていました。2017年、従来の70名程度だった学科を2つ統合し、4つの大きな学科に再編、そこに建築・デザイン学科を加え、夜間を主とするフレックスコースであるシステム創成工学科とあわせて新たな6学科体制になりました。新体制で迎えた学生が今年度4年生になり、大学院の体制も変えました。進学を希望の学生さんには、全学科で修士号をとる課程が整ったということです。

**長谷部** 建築・デザイン学科は今山形にあります。米沢キャンパスの構内に建てている建物の準備状況を教えてください。

**中島** 来年の4月に竣工の予定です。今後は十分に広いスペースを確保した学部生、大学院生の教室も整えられると思いますので、期待して待っててください。

**長谷部** コロナはまだまだ続くと予想されますが、例年行われている合同企業説明会の予定を教えてください。

**中島** オンラインでの開催が決まっており、例年と同じくらいの参加企業が集まっています。今、企業説明会や就職面接のオンライン化も進んでおり、親御さんのなかには心配されている方もいらっしゃるかもしれませんが、しかしこの流れは、企業の採用担当の方とお話すると、前向きな話題にな





るのです。これまで地方の学生はかなりの費用と時間をかけて東京などに出向き就職活動をしてきました。それがオンラインになれば、特に地方の大学の学生を採用したいと思っている企業様にとっても機会が広がります。オンライン化によってもっと様々な会社とコンタクトがとれるようになり、移動を伴わずに優秀な人材を採用してもらえるようになるのです。まだこれからの状況は分かりませんが、安心していただいて大丈夫かなと思います。

**落合** 就職活動では一次試験、二次試験がオンラインで、最終面接のみ移動という学生が殆どです。以前は1～2週間泊まり込みなど、お金も時間もかかっていましたが、現在は朝実験して、午後に面接を受けるなど、研究との両立もできるようになりました。キャリアサポートセンターでは、オンラインを含めた就職活動の相談や講座も行っており、皆さんに活用いただいています。これまで合同企業説明会のために行われていた事前指導も、オンラインでマナー講座を行っています。

**長谷部** 実は後援会も、北海道・東北地区、関東・甲信越、中部西部地区のブロックに分け3回保護者会を開催しているのですが、今年度はやむを得ずオンラインで行いました。交通費や日程的な余裕があり、非常に良いという声もありました。もちろん私としては、学生たちが学んでいる米沢を保護者の方にも見ていただきたいというのが本音です。この状況を逆手にとって進めて行きたいものですね。

**中島** 3月の卒業式、それから大学院生の修了式は開催する予定です。工学部は、感染予防に注意し、学内で会場を分散して実施します。しかし残念ながら保護者の方は、感染予防の観点から、事後配信もしくはオンラインでの配信で卒業式の様子をご覧いただくようにしたいと思っています。お子さんが名前を呼ばれ卒業証書を受け取る瞬間をご

## 米沢工業会 理事長 上村 勘二

昭和43年 3月 山形大学工学部機械工  
学科卒業  
昭和51年 4月 山形県教員採用、酒田  
工業高校赴任  
平成14年 4月 山形県立米沢工業高校  
校長  
平成18年 3月 定年退職  
平成21年 6月 山形大学工学部後援会  
副会長  
平成23年 6月 山形大学工学部後援会  
会長  
平成27年 6月 後援会会長退任  
平成29年10月 一般社団法人米沢工業  
会理事長



覧いただきたいです。またその後の入学式については、残念ながら今年には行わない予定です。しかし昨年様々な状況を経験しましたので、4月からは授業と講義は基本的に対面型で行い、いつでもオンラインに切り替えられる状態で体制を整えて進めていきます。

今気がかりなのは、サークル活動ですね。大学に来て新しい仲間と出会い、それぞれ趣味を共通にする人たちと人間関係を築いていくというのは、非常に重要な部分だと思います。今は感染予防対策を行いながら実施していただいています。今後の状況によってはさらなる制限がかかるかもしれません。学生生活を大切にしながら今後もこの状況をなんとか乗り切りたいと教職員一同力を合わせてまいりますので、保護者の皆様にもご理解をいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

**長谷部** コロナ禍によっていろいろ問題が発生していますけれども、学務課を通じて相談すると何か良い知恵が出てくるとと思います。保護者も学生も積極的に学務課を利用して良い学生生活を送ってもらえたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。







## 工学部の歩み - コロナ禍にあって -

工学部長 中島 健介

工学部後援会々員の皆様には、日頃から工学部における学生の課外活動をはじめ、教育研究環境の整備にもご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。さて、私こと、昨年4月より工学部長を仰せつかり、早1年が過ぎ去ろうとしております。それまでの6年間は、副学部長として入学者選抜に携わってまいりました関係上、令和元年12月に中国の武漢に端を発した新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大に伴う入試対応、学位記授与式の中止といった様々な対応に追われる中、心構えを整える間も無いまま4月を迎えたというのが正直な心境です。

このようななか令和2年度は、新たに就任した玉手学長の下、4月1日に総合対策本部今年度第1回会議が招集され、医学部の専門家の意見も踏まえながら、感染拡大を防止した上で教育・研究を継続するという基本方針が決定され、入学式をはじめとする諸行事の中止、授業開始を遅らせることとなりました。学生と保護者の皆様が、学生生活のスタートを不安とご苦労の中でお迎えになったであろうことは察するに余り有るところです。結果的には、4月7日の緊急事態宣言の発令を待たずに、先手を打って上記の決定をしたことは、その後の具体的かつ効果的な対策を実施するうえで止むを得ない判断であったことをご理解いただきたいと存じます。教育面では、4月からしばらくの間キャンパスを閉鎖し、原則として前期全ての科目を、いわゆる遠隔授業により実施いたしました。遠隔授業は、以前から導入されていた学習支援システム(LMS)のウェブクラス(WebClass)を利用した配信型を基盤として、講義開始を延期した期間を使って全教員一丸となって準備に取り組ませていただきました。遠隔授業を受講する上で、インターネットへの接続環境の整っ

ていない学生には、三密を避けながらキャンパス内に受講や授業資料や課題の印刷が行える施設を用意するとともに、後援会のご支援を得てモバイルルーターの貸し出しを行わせていただきました。インターネット環境に不安のある学生にとっては、心強い支援となったものと存じます。改めて御礼申し上げます。

遠隔授業の開始当初には、保護者の皆様からも厳しいご意見も頂戴いたしました。問題点は真摯に反省し、迅速な改善につなげてまいりました。学生との対面コミュニケーションの欠如がもたらす教育上の問題を少しでも解消するために、閉鎖期間中に工学部が実施した登校日は、その後全学にも広がり有意義であったと自負しております。なお、後期には、冬季に再び感染が拡大することを見越して、実験・実習科目の前倒し実施を含め12月までは対面による授業を行い、1月からは、事前のアナウンスどおり、再び原則として遠隔による講義を実施したことはご承知のことと存じます。

コロナ禍に対応した行動変容から一歩進んで社会変容までが求められる中において、対面が必須の教育や学生の澁漉な課外活動は維持しながら、時間の制約を取り払ったオンデマンド講義の充実など、大学教育も待たなしの変革のときを迎えています。このような中で工学部には、教育の質をより一層高め、産業社会を変革する高度人材の輩出と研究成果の社会還元が求められています。工学部創立110周年の今年、国立大学工学部の中でも有数の長い歴史の重さと実績を胸にきざみ、新しい産業社会の実現と発展に寄与する技術者、研究者、インパクトのある研究成果を生み出し続けるよう教職員一丸となって努力してまいります。

## 学務委員会だより

学務委員会委員長 齊藤 敦  
(大学院理工学研究科 電気電子工学分野 教授)



学務委員会は、学部における教育カリキュラムを円滑に実施するための部門であり、学生が大学生活を送る際の様々な支援も担当しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け入学式は中止、新学期オリエンテーションは3密を避けた最低限での実施となりました。前期の授業は原則遠隔講義での実施となり、2週間遅れで開始されましたが、その後のキャンパス閉鎖を経て本格的な開始は5月10日からという異例の年となりました。この期間、新入生、在学生、保護者の方は非常に不安な日々をお過ごしになったことと思います。学務委員会では学生の不安や悩みをできる限り個人レベルで対応しつつ、遠隔

講義の実施に関するルールやマニュアル整備に注力しました。この間ご協力いただいたボランティア精神に溢れる教職員の方々、ご理解いただいた学生・保護者には本当に感謝申し上げます。全学規模の様々な感染症対策やルール整備により、後期からは対面授業も開始されました。後期授業の実施にあたり、オンライン講義の併用や感染拡大が懸念される冬季の実習を避けるために実験科目の一部を9月から実施するなど、教育効果を低下させることなく、この難局を乗り切ることができるよう努力しています。保護者の皆様方におかれましては、遠方のお子さんの様子を定期的にご確認いただき、ご心配な点や改善すべき点がありましたらご遠慮なくご連絡いただけますようお願いいたします。

## 教務委員会だより

教務委員会委員長 野々村 美宗  
(大学院理工学研究科 バイオ化学工学分野 教授)



2020年代に入り、世界の情勢が劇的に変化し、私たちの生活にも影響が及んできています。そんな中、教務委員会では、これらの社会課題に取り組み、イノベーションを推進する人材を育成する工学教育を構築するために、さまざまな取り組みを進めています。

まず、2021年度には理工学研究科が改組されます。化学・バイオ工学専攻、情報・エレクトロニクス専攻、機械システム工学専攻に加えて、風土に根差した地域を生み出す建築・デザインと産業の発展を支えるマネジメント手法について学ぶ「建築・デザイン・

マネジメント専攻」が新たに設置されます。この新しい大学院では、山形大学全体の大学院教育を担当する大学院基盤教育機構を中心に、研究科の枠組みを超えて広い分野について学び、教養を身につけることができます。

また、米沢キャンパスにAIデザインセンターが設置され、データサイエンスについてハード・ソフトを駆使しながら実践的に学ぶことができるようになります。学生たちが自由に学び、研究することができる仕組みを作っていくために、教員一同で新たな取り組みを進めて参りますので、保護者・卒業生・後援会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

## 学生相談室だより

学生相談室長 落合 文吾  
(大学院理工学研究科 物質化学工学分野 教授)



学生相談室は、学生のみならずの悩みや困りごと（学習、生活、心身、経済、人間関係、将来など）に広く対応させて頂く部署です。また、学生相談室のみでなく、担任に相当するアドバイザーをはじめ、全ての教員が相談の窓口となっております。相談の形態は、対面、オンライン、メールなど、ご要望に応じます。保護者の皆様からのご相談もお受けしております。プライバシーへの配慮と、迅速かつ真摯な対応を両立すべく尽力しておりますので、何かございましたら、学務課学生支援担当までお問い合わせください。

学生相談室は、相談を受けて話を聞くだけに終わらず、解決に向けた行動を取ることを心がけて

おります。例えば、対人関係で困難が生じた場合の環境の整理、学習に困難を感じる場合の補助者の措置などを行ってきました。特に、2020年は新型コロナウイルス感染症で不安や困難を抱えた方もいらっしゃいました。教職員一同にとっても初めての事態に戸惑うことが多く、暗中模索しながら対策を進めてまいり、様々な支援体制が出来上がってきたところです。また、相談を待つだけでなく、様々な啓発活動や困難を抱えていると見られる学生への声かけなど、より良い学習環境を構築するための能動的な活動も行っています。

今後も学生相談室の活動に対する保護者の皆様のご理解とご協力、並びに学生相談室のご活用をお願い申し上げます。



# 山形の未来を切り開け！



## この一年を振り返って

2020年度は、コロナ禍により、世界的に移動が制限され、国際交流も多大な影響を受けた1年となりました。予定されていた文部科学省トビタテ！留学Japan（米国、ドイツ）、工学部国際連携サマープログラム（タイ・カセサート大学シラチャキャンパス）等の派遣プログラムや、JSTさくらサイエンスプラン（中国・南京大学、タイ・モンクット王ラカバン工科大学）等の受入プログラムは全て延期・中断・中止。また、入国できずに母国での待機を余儀なくされる留学生も複数現れ、今もなおその余波は続いています。大学時代に留学を実現させたいと考えていた学生の皆さんにとっては予定変更をせざるを得ない事態となり、非常に辛い時間だったことと思います。

このような厳しい状況の中、新たな動きもいくつかありました。1つ目は、国際交流センターの移転です。1号館から9号館へと移り、新しく快適なスペースでの活動開始となりました。2つ目は、夏に訪問予定だったタイ・カセサート大学の学生とのオンライン交流です。英語でのプレゼンテーションは

工学部国際交流センター副センター長  
准教授 仁科浩美

初めての学部生も多く、緊張していたようですが、日頃のEnglish Lunch Chatでの練習の成果を発揮し、学生生活やプラスチックによる海洋汚染の問題などについて活発に話し合いました。3つ目は、国際交流センターに新しい教員、武田ジェシカ助教（米国出身）が着任したことです。今後ますます学生の皆さんに役立つ情報を提供するとともに、教育面での支援強化に努めていきたいと考えています。

入国・出国もままならぬ日々が続いていますが、再び自由に世界を移動できる日を待ちつつ、今できることを最大限に行いながら、オンライン等を駆使して世界の若者につながる機会を設けていきたいと思えます。



タイ・カセサート大学との  
オンライン交流



English Lunch Chatの仲間たち  
(前列向かって右から2番目武田ジェシカ助教)



## 学生による留学体験談

私は2018年9月から約2年間、米国Stanford大学で、次世代の電子デバイスとして注目を集める伸縮性エレクトロニクス分野で、新しい電子材料の設計開発からデバイス作成評価に関する研究を行いました。

この留学の主たる動機は、①トップダウン的な研究アプローチを学びたい、②世界トップの現場で自分の専門知識、スキルが通用するか確かめたい、③分野横断的な複眼的思考力を養いたい、の3点でした。M2の頃、高分子合成を主軸としてボトムアップ的に研究を行っていた私は、材料合成・評価の先にあるアプリケーションや、実際にその材料を使う人の立場をあまり理解できていないことに、日々やるせなさを感じていました。そこで、D1の秋から米国修行に赴くことを決意しました。

この留学の中で特に価値ある経験だと感じるのは、一流の現場で博士学生やポスドクとして活躍するトップ研究者達の、細かな所作や話し方、着眼点を

大学院有機材料システム研究科博士後期課程有機材料システム専攻3年  
リーディングプログラム生 落合優登

じっくり観察しながら一緒に仕事ができただけです。留学は、現在の社会情勢もあり、忌避されがちですが、文章や画面越しだけでは学び、感じる事が難しい、実際に現地で活動するからこそ得られる普段の何気ない生活、日常の中の気づきこそ、本当に価値のある経験であり、自分の成長につながっていると感ずきます。また、山形で培った知識と技術は、米国での研究で非常に強力な武器になりました。まだまだ未熟ではあるものの、世界を相手に自分は戦っていけるという自信を得たと同時に、より鋭く自身を磨き続けていく決意を固めました。そして何より、公私共に上を目指せる多くの友人が世界中にできたことが今回の留学における最大の成果です。この2年間で得たものを、今後も大切にしていこうと思えます。



ホームパーティーにて(一番右筆者)



# 学科(専攻)だより

## 高分子・有機材料工学科



高分子・有機材料工学科は学科改組により2017年4月に設置されました。2020年度は新学科の最初の入学生が4年生となると同時に、146名が新たに入学してきました。新型コロナウイルスの蔓延により入学式が中止となり、新入生にとっては普段とは違う大学生活の始まりとなりました。前期はオンラインでの講義となり、教員は制限のある中で最大限の学習環境を提供すべく努力をしておりましたが、学生達にとっては慣れない環境の中での修学となり苦勞も多かったように思います。また卒業生にとって大学生活の節目となるはずの学位授与式が昨年度は中止となってしまいました。例年実施しておりました各種行事が中止やオンラインでの実施となることも多々ありました。このような活動制限がある難しい状況でも最大限の教育と研究活動を実施すべく努力してきています。昨年11月には工学部に本学農学部の学生が訪問し、研究交流会を実施するこ

教育プログラム長 教授 西岡 昭博

とができました。本学科と農学部の学生達が互いの研究成果を発表することで、学生同士の交流を通じて学部を超えた学生間連携の発展に意味あるイベントを行うことができたと思います。久しぶりの対面での交流が実現し、改めて対面での交流の重要性に気付かされたイベントとなりました。我々教職員はコロナ禍という厳しい環境であっても、充実した学生生活を提供すべく引き続き努力して参ります。本学科の活動に対して保護者及び後援会の皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



工学部-農学部の学生による研究交流イベントの様子(2020年11月)

## 化学・バイオ工学科 物質化学工学分野



新型コロナウイルスへの対応で過ぎた1年でした。保護者の皆様、後援会の皆様も同様だったのではないのでしょうか。報道等でご存知と思いますが、大学においても次々と新たな対応がなされました。卒業式、入学式

の中止、オンライン講義(webclass)での課題・演習の提出や小テスト、zoom、teams、webex等のソフトの利用が進みました。学生へのケアとしてはアンケート調査、オンライン用のwifi機器の貸し出しや各種奨学金のアナウンスが行われました。学生の就職活動では、合同企業説明会が中止されるなど厳しい状況でのスタートでした。理工系の採用活動は少し遅れましたが、最終的には就職率は例年より早期にほぼ100%に達しました。研究活動では、感染予防のフィルムや研究室内のマスク姿、アルコールや次亜塩素酸水スプ

教育プログラム長 教授 遠藤 昌敏

レーでの手指の消毒も日常となっております。学科および専攻内での発表会でも3密が避けられ、少ない教員での審査へと変更されました。学生同士の交流の面では、多くのサークル活動は感染予防の面で制限されており、芋煮会等のイベントも行いにくい状況が続いております。

化学・バイオ工学科への改組から4年経過し、令和3年度から化学・バイオ工学専攻への改組も認められましたが、しばらくは政府の専門家会議で示された新しい生活様式に従って進めていくこととなります。今後とも皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。



コロナ後研究室風景

## 化学・バイオ工学科 バイオ化学工学分野



本年度に設置4年目を迎えた化学・バイオ工学科バイオ化学工学コースは、4年生が研究室に本配属となり、本格的に卒業研究に取り組み始めました。新型コロナウイルス禍において研究活動が制限される中、10月に無事に卒業研究中間発表会を終えることができました(写真)。1年生はオンライン授業という従来とは異なる形で講義が始まりましたが、後期になり対面授業が再開されるとともに大学生活にも慣れ、勉学に勤しんでいます。2学年生は専門基礎とともに実験演習などの本格的な専門科目に取り組み、3学年生は後期から各研究室に仮配属し、より高度な専門知識と研究スキルの習得に勤しんでいます。

本コースの学生の多くは、化学や製薬・医療に関連する分野への就職・進学を希望しています。これに応えるために、本コースでは医療、創薬、環境、ヘルスケア分野の先端研究を行っている教員を重点的に配置し、教育及び研究のレベル向上を図っています。

今後とも、保護者及び後援会の皆様方の温かいご

教育プログラム長 教授 阿部 宏之

支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



卒業研究中間発表会の様子

## 情報・エレクトロニクス学科 電気電子工学分野



2017年に新設された情報・エレクトロニクス学科も今年度末には初めての卒業生が誕生します。大変喜ばしい年となるはずでしたが、コロナ感染症のため、教育研究において様々な制約を受ける事となりました。

特に実験や演習を重視する本学科では担当教員が様々な工夫をし、最低限の影響で教育を継続してきました。後期は対面授業が再開されますが、感染が拡大した場合は即オンライン形態に移行するため、実験は夏季休業期間中の2週程度で3密を避けながらほぼ終了するようにスケジュールや方法を工夫し実施しました。

来年度は博士前期課程に情報・エ

教育プログラム長 教授 近藤 和弘

レクトロニクス専攻が誕生します。同専攻ではコースは設けず情報系、電気系が融合した高度教育研究を目指します。今後皆様のご期待に添えるように教職員一同努めてまいります。関係各位のご支援をお願いします。





## 情報・エレクトロニクス学科 情報科学分野



情報科学分野の近況についてご報告します。

今年度前期は、コロナ禍により全面的なりモート授業でした。教員側はフィードバックなしでの講義に、学生側は一人だけの学習に、それぞれ戸惑ったようですが、双方とも次第にペースをつかみ、レポートの随時受付などの利点も見えて来ました。

また、長年使われてきた計算機室が10号館に移転となって新しい設備となりました。これと呼応して、コース内にカリキュラム検討委員会が立ち上がり、教育内容の面からも現代の情報・知能コースの学生たちにふさわしい改革が進められています。

そして就職のことですが、春の合同

教育プログラム長 教授 野本 弘平

企業説明会が中止になったことが影響してか、例年よりも内定率はやや低めです。しかしその一方、デジタル庁の設置に象徴されるデジタル化の潮流には力強いものがあり、情報系の学生の引合いは一段と活発化して来ています。



## 機械システム工学科



2020年度は、新型コロナウイルスの猛威により世の中が一変し、学生諸君も教職員も大変な思いで乗り越えてきた1年となりました。前期はWEBクラスでの講義となり、本学科では実験や実習科目なども教材に可能な限りの工夫を凝

らしてオンライン教育に努めました。後期には対面授業を再開し、また卒研生や大学院生の研究活動や就職の指導・支援にも奮闘を続けてきました。コロナ禍が終息に向かっていくことを願いつつ2021年度を迎えます。当学科は、2017年度（平成29年度）の改組で学生定員が増員され、バイオニクス分野の教員も加わり一段と規模の大きな学科に生まれ変わりました。それから4年が経過し、2021年春には新学科として初の卒業生を送り出します。2021年度からは大学院博士前期課程も50名から63名に定員が増員され、「構造・

教育プログラム長 教授 峯田 貴

材料・デザイン領域」、「熱流体・エネルギー領域」、「ロボティクス・バイオニクス領域」の大きな3領域のもと、図のように幅広い分野をカバーする新しい機械システム工学専攻がスタートします。With/Postコロナ社会への対応にも取り組みながら、一層の研究と教育の充実を図って参ります。保護者の皆様方の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

### 機械システム工学分野・ますます広がるその領域



## 建築・デザイン学科



平成29（2017）年4月に新設された本学科は、1年生から4年生まで全ての学年が揃いました。今春3月には初めての卒業生を世に送り出します。4月から大学院修士課程として建築・デザイン・マネジメント専攻が新設されます。お蔭をもちまして

4年生は、大学院進学・就職とそれぞれの進路が決まりました。

本学科の教育・研究目標は「地域に根ざす」です。建築設計教育では、「建築設計製図Ⅱ」（3年前期、担当：佐藤慎也教授、濱定史助教、相羽康郎非常勤講師）で取り組んだ安倍豪人さん、山中美紀さん、吉澤航平さんの共同作品「Connection ～人や自然を繋げる学校～」が、第24回日本建築家協会（JIA）東北建築学生賞で東北地区の9大学1高専から応募された代表作32作品の中から優秀賞に選ばれました。研究面では、三辻和弥教授は鈴木建築設計（代表：藤原薫）との共同成果である旧長井小学校第一校舎の耐震改修工事が日本建築防災協会から耐震改修優

教育プログラム長 教授 永井 康雄

秀建築賞を受賞しました。永井は氏家建築設計事務所（代表：氏家清一）との共同成果である旧くりはら田園鉄道の駅舎や機関車庫などを保存・活用した「くりでんミュージアム」が第13回JIA東北住宅大賞2019で奨励賞を受賞しました。

米沢キャンパスでの新学科棟の完成、大学院の新設と徐々に研究・教育環境が整って参りました。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。



左から安倍豪人さん、吉澤航平さん、山中美紀さん

## システム創成工学科



システム創成工学科は、令和2年度に11期生 50名を迎えることができました。今年度はCOVID-19の影響で前期からオンライン授業となり、特に新1年生は入学後、工学部に足を踏み入れることも大変な状況が続きました。学科独自の実習等が

できない中、なんとかZoomによるオンライン授業を開催するなど、我々教員も手探り状態に対応しておりましたが、大きな混乱もなく1年が過ぎようとしております。嬉しいことに、今年の1年生はパテントコンテストで2名が優秀賞に選ばれました。これから特許申請に向けて頑張ってもらえます。本学科は定員50名というコンパクトな学科を活かして、特許教育や社会人基礎力の養成に力を

教育プログラム長 教授 木俣 光正

注ぎ、社会人のための夜間コースも備わっております。講義だけでは物足りない学生に対しては「チャレンジコース」が用意されており、今期は2年生1名、1年生6名が分担してクラゲ型のロボットを作製中とのことです。今年度、大学院進学者は20名、就職希望者はすべて就職先が決まりました。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力を宜しく申し上げます。



令和元年度システム創成工学科卒業式(コロナ禍で学科単位、工学部内開催)



# 保護者懇談会を オンラインで開催しました！

毎年3つのブロックに分けて行っている保護者懇談会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。

当日は中島学部長、長谷部後援会長の挨拶の後、落合副学部長から工学部における新型コロナウイルス感染症への対応状況や就職・進学状況等の報告が行われ、引き続き、保護者の皆様と担当教員との個別相談が実施されました。

実施後のアンケートでは、「交通費がかからず経済的で移動する手間がなく良かった」、「また来年度もオンラインで実施して欲しい」等のご意見が多数寄せられました。

工学部後援会では来年度も保護者懇談会を開催し、保護者の皆様に工学部の現状やお子様の学生生活の様子等をお知らせする機会を提供していきます。

## ○関東・甲信越地区

日 時：令和2年9月5日(土)  
場 所：工学部中示範C教室(オンライン開催)  
申込人数：120名(世帯数：97)  
参加教員数：25名

## ○北海道・東北地区

日 時：令和2年10月10日(土)  
場 所：工学部中示範C教室(オンライン開催)  
申込人数：172名(世帯数：142)  
参加教員数：38名

## ○中部・西部地区

日 時：令和2年11月1日(日)  
場 所：工学部中示範C教室(オンライン開催)  
申込人数：49名(世帯数：42)  
参加教員数：20名



# 令和2年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

## 1. 工学部

(令和3年2月末現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼 間 ・ A コ ー ス	高分子・有機材料工学科	山形カシオ(株)(3名)、アリオンテック(株)、オリンパス(株)、上山市職員、寒河江市職員、佐藤(株)、日精樹脂工業(株)、日本パッキング工業(株)、東根農業協同組合、紅屋商事(株)、山形航空電子(株)、四日市合成(株)、ラピスセミコンダクタ宮城(株)、(株)ドコモCS東北、(株)日進エンジニアリング、(株)日立ハイテクソリューションズ、(株)ファイブフォックス、(株)メンテック、山形大学大学院(99名)、東北大学大学院、東京工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、九州大学大学院	
	化学・バイオ工学科	CBホールディングス(株)、出雲村田製作所(株)、稲城市職員、エム・エフ・ヴィ(株)、大原薬品工業(株)、河北町職員、三洋興熱(株)、白河オリンパス(株)、税理士法人 あさひ会計、仙台市職員、田中貴金属工業(株)、千代田工商(株)、東邦アセチレン(株)、東邦工業(株)、東洋インキSCホールディングス(株)、ニプロファーマ(株)、日本地下水開発(株)、日本テキサス・インスツルメンツ合同会社、日本ドライケミカル(株)、ニューメディア(株)、能美防災(株)、日立ソリューションズ東日本(株)、福島市職員、古着倉庫、ミドリオートレザー(株)、モガミフーズ(株)、山形県警察、山形県職員、米久(株)、ラピスセミコンダクタ(株)、菱機工業(株)、ルビコン(株)、レンゴー(株)、(株)LAVA International、(株)NTC、(株)アルテニカ、(株)エイネス、(株)ザ・フオウルビ、(株)タムラ製作所、(株)東陽理化学研究所、(株)トリケミカル研究所、(株)ニッソー、(株)富士通ゼネラル、(株)富士通パーソナルズリテールサービス、(株)プレスステージ・インターナショナル 秋田BPO横手キャンパス、(株)ボードルア、(株)ホンダテクノフォート、(株)マイナビ、(株)ヨコオ、(株)吉野工業所、山形大学大学院(58名)、東北大学大学院(4名)、京都大学大学院、上越教育大学大学院	
	情報・エレクトロニクス	ソフトクリエイトホールディングス(株)(3名)、東北電力(株)(3名)、静岡県職員(2名)、仙台市職員(2名)、三菱電機ビルテクノサービス(株)(2名)、(株)エクスモバイル(2名)、(株)関電工(2名)、(株)日立社会情報サービス(2名)、日本プロセス(株)(2名)、ActsDesignHaus(株)、EMデバイス(株)、JFEコンテナ(株)、nmsエンジニアリング(株)、経済産業省 東北経済産業局、コナミホールディングス(株)、サイバーコム(株)、白河オリンパス(株)、住友電装(株)、セコム工業(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、ダイアモンドヘッド(株)、高浜工業(株)、東京エネシス(株)、東北パイオニア(株)、栃木県職員、日星電気(株)、日本電産コバル電子(株)、ユニオンツール(株)、(株)KDDIエボルバ、(株)NTC、(株)NTTデータNJK、(株)NTTファシリティーズ東北、(株)NTT東日本ー東北、(株)VSスマートテック、(株)アイティエス、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)アルプス技研、(株)オーネスト、(株)光と設計、(株)シナリオテクノロジーミカガミ、(株)ステップ、(株)ソフト、(株)ソリマチ技研、(株)テクノプロ・エンジニアリング社、(株)フェズ、(株)フジ・コーポレーション、(株)ホテイフーズコーポレーション、(株)東北システムズ・サポート、(株)日本シューター、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、東柱シーテック(株)、東日本電信電話(株)、凸版印刷(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、北海道旅客鉄道(株)、山形大学大学院(63名)、東北大学大学院(3名)、福島大学大学院、筑波大学大学院	
	機械システム工学科	いすゞ自動車(株)(3名)、ヤマハモーターエンジニアリング(株)(2名)、(株)アウトソーシングテクノロジー(2名)、(株)カンセツ(2名)、HARIO(株)、THKインテックス(株)、UTエイム(株)、アイシン機工(株)、会津オリンパス(株)、アイリスオーヤマ(株)、アルプスアルパイン(株)、イワタボルト(株)、河村化工(株)、キヤノンITソリューションズ(株)、ジヤトコ(株)、ジャパンエレベーターサービスホールディングス(株)、白河オリンパス(株)、スズキ自動車(株)、セコム工業(株)、ゼブラ(株)、東北エプソン(株)、新潟市職員、日東紡績(株)、日本ケミコン(株)、日本航空電子工業(株)、日本車輜製造(株)、東日本旅客鉄道(株)仙台支社、東日本旅客鉄道(株)東北工務事務所、東日本旅客鉄道(株)新潟支社、日立建機カミノ(株)、三菱自動車エンジニアリング(株)、山一電機(株)、山形県職員、山形航空電子(株)、ユニプレス(株)、(株)エイチワン、(株)エデュカルモチベーションズ、(株)小田原エンジニアリング、(株)ケーシーエスキャロット、(株)サイプレス・ソリューションズ、(株)駿河生産プラットフォーム、(株)ソルクシーズ、(株)太陽機工、(株)デンソーFA山形、(株)ニクニ白鷹、(株)フジドリムエアラインズ、(株)プロシップ、(株)ホンダテクノフォート、(株)メイテック、(株)モンバル、(株)彌満和製作所、山形大学大学院(62名)、東北大学大学院(2名)、電気通信大学大学院、筑波大学大学院	
	フレックスシステム創成工学科	ASEジャパン(株)(2名)、イビデンエンジニアリング(株)、信州航空電子(株)、デーコム(株)、テクノメタル(株)、テスコム電機(株)、東亜道路工業(株)、トオカツフーズ(株)、ナショナルソフトウェア(株)、日本ペイントコーティングス(株)、ネスレ日本(株)、ミドリオートレザー(株)、山形パナソニック(株)、リコーテクノロジー(株)、(株)JUKI産機テクノロジー、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)デンソーFA山形、(株)日産オートモーティブテクノロジー、(株)ユアテック、山形大学大学院(18名)	

## 2-1. 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
物質化学専攻	SOLIZE Engineering(株)(2名)、AGCエレクトロニクス(株)、NOK(株)、アイカ工業(株)、アキレス(株)、大内新興化学工業(株)、京セラ(株)、コニシ(株)、信越化学工業(株)、新光電気工業(株)、住友ベークライト(株)、太平洋セメント(株)、東邦化学工業(株)、日産化学(株)、日新製薬(株)、日本ゼオン(株)、日本ファインケム(株)、日本プロセス(株)、日立化成(株)、ヒロセ電機(株)、富士電機(株)、プラス・テック(株)、ホーチキ(株)、北海道電力(株)、三菱ガス化学(株)、三菱マテリアル(株)、森永エンジニアリング(株)、山形航空電子(株)、横浜ゴム(株)、レイズネクスト(株)、(株)テクノモバイル、(株)寺岡精工	
バイオ化学工専攻	ニプロ(株)(2名)、DOWAホールディングス(株)、TOYO TIRE(株)、エア・ウォーター・ゾル(株)、栄研化学(株)、大内新興化学工業(株)、川研ファインケミカル(株)、関東化学(株)、協和発酵バイオ(株)、広栄化学工業(株)、コスモエンジニアリング(株)、住友ゴム工業(株)、住友重機械工業(株)、中外製薬工業(株)、東邦化学工業(株)、東洋紡(株)、日東紡績(株)、ニプロファーマ(株)、東柱シーテック(株)、本州化学工業(株)、三菱ケミカル(株)、(株)LIXIL、(株)イノアックコーポレーション、(株)クラレ 鹿島事業所、(株)クレハ、(株)サンプラネット、(株)富士通ゼネラル、山形大学大学院	
応用生命システム工学専攻	(株)インテック(2名)、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)(2名)、アイシンソフトウェア(株)、川澄化学工業(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、興和(株)、白河オリンパス(株)、テルモ(株)、トヨタ自動車(株)、日油(株)、日機装(株)、ニプロ(株)、富士ゼロックス(株)、富士電機(株)、(株)テクノプロ テクノプロ・エンジニアリング社、岩井ファルマテック(株)、日本システムウエア(株)、富士通クラウドテクノロジー(株)	
情報科学専攻	(株)ソフトクリエイトホールディングス(2名)、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所(2名)、凸版印刷(株)(2名)、NECエンベデッドプロダクツ(株)、SCSK(株)、アークレイ(株)、アズビル金門(株)、キオクシア岩手(株)、セイコーエプソン(株)、テクノスデータサイエンス・エンジニアリング(株)、トヨタ自動車(株)、レイズネクスト(株)、(株)DNP情報システム、(株)KADOKAWA connected、(株)NS・コンピュータサービス、(株)OKIソフトウェア、(株)YCC情報システム、(株)セック、(株)データシステム米沢、(株)トーセイシステムズ、(株)日立システムズ、(株)日立ソリューションズ東日本、(株)日立社会情報サービス、三菱電機エンジニアリング(株)、東北電力(株)、日本信号(株)、富士ゼロックスシステムサービス(株)	
電気電子工学専攻	NECプラットフォームズ(株)、会津オリンパス(株)、いすゞ自動車(株)、岡谷精立工業(株)、白河オリンパス(株)、信越化学工業(株)、新光電気工業(株)、スズキ(株)、スタンレー電気(株)、住友電設(株)、住友重機械工業(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、東京エレクトロングループ、東芝ライテック(株)、東北電力(株)、日本アビオニクス(株)、日本電子(株)、日本ラッド(株)、東日本旅客鉄道(株)、日野自動車(株)、富士電機(株)、北海道電力(株)、本田技研工業(株)、三菱ガス化学(株)、レンゴー(株)、(株)KOKUSAI ELECTRIC、(株)アルプスアルパイン、(株)インターネットイニシアティブ、(株)内田家具、(株)きんでん、(株)ジェイテクト、(株)シリックス、(株)大気社、(株)フジクラ、(株)明電舎、(株)リガク	
機械システム工学専攻	富士電機(株)(3名)、アルプスアルパイン(株)(3名)、東京エレクトロングループ(2名)、セイコーエプソン(株)(2名)、芝浦機械(株)(2名)、IHIエアロマニュファクチャリング(株)、NITTOKU(株)、NOK(株)、ヴィスコ・テクノロジー(株)、江崎グリコ(株)、オルガノ(株)、川崎重工	



機械システム工学専攻	業(株)、キヤノンアネルバ(株)、キヤノンモールド(株)、サイバネットシステム(株)、ジェイテクト(株)、シャープ(株)、白河オリオンパス(株)、住友化学(株)、住友重機械工業(株)、セントラル硝子(株)、ダイキン工業(株)、東北電力(株)、豊田合成(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日本軽金属(株)、日本航空電子工業(株)、日本精工(株)、日本発条(株)、東日本旅客鉄道(株)仙台支社、東社シーテック(株)、フロイント産業(株)、本田技研工業(株)、マツダ(株)、三菱スペース・ソフトウエア(株)、(株)IHI、(株)アドバンテスト、(株)アマダホールディングス、(株)荏原製作所、(株)クレハ、(株)シータス、(株)デンソー、(株)デンソーFA山形、(株)日立ニコトランスミッション、(株)深井製作所、(株)ブルボン、(株)メイテック、(株)明電舎、(株)本山製作所
ものづくり技術経営専攻	(株)タカハシ、荒川区職員、(有)中央パフ製作所

## 2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	信越化学工業(株)(3名)、東京エレクトロン(株)(2名)、京セラ(株)(2名)、インテグリス・ジャパン(株)(2名)、出光興産(株)(2名)、アキレス(株)(2名)、DOWAホールディングス(株)、TOYO TIRE(株)、アルプスアルパイン(株)、大内新興化学工業(株)、オカモト(株)、キオクシア岩手(株)、キオクシアシステムズ(株)、キオクシア(株)、キョーラク(株)、広栄化学工業(株)、弘進ゴム(株)、国土交通省関東整備局、サカタインクス(株)、サムコ(株)、サンディスク(株)、ジャトコ(株)、大協精工(株)、大日化成工業(株)、大日本印刷(株)、デクセリアルズ(株)、デンカ(株)、東京応化工業(株)、東芝ホームテクノ(株)、東北バイオニア(株)、東洋インキ(株)、東レ(株)、巴工業(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ紡織(株)、ニチハ(株)、日産自動車(株)、日清食品ホールディングス(株)、日星電気(株)、日東紡織(株)、日本合成化工(株)、日本曹達(株)、日本電産(株)、浜松ホトニクス(株)、三ツ星ベルト(株)、ミネベアミツミ(株)、山形航空電子(株)、山下ゴム(株)、ユニプレス(株)、横浜ゴム(株)、リンテック(株)、(株)LIGHTz、(株)SEC、(株)国際電気セミコンダクターサービス、(株)コジマ、(株)スタッフサービス・エンジニアリング、(株)ダイセル、(株)トーキン、(株)ニフコ、(株)ワールドインテック R&D事業部、(財)化学物質評価研究所、山形大学大学院(8名)、総合研究大学院大学	

## 3-1. 大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料工学専攻	有職者(1名)	
物質化学工学専攻	三菱ガス化学(株)、昭和電工(株)、有職者(1名)	
バイオ工学専攻	有職者(1名)	
電子情報工学専攻	キオクシア(株)、山形大学	
機械システム工学専攻	有職者(1名)	

## 3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	理化学研究所、山形大学、有職者(1名)	

# 令和2年度 卒業・修了予定者の就職状況

(令和3年2月末日現在)

学科・専攻別	工学部 昼間・Aコース										工学部 フレックスコース		博士前期								合計		
	工高 分子 学	化学 (応用) 化学 工学 専攻	化学 (バイオ) 化学 工学 専攻	化学 (バイオ) 化学 工学 専攻	工 学	学 科 (生 命 シ ス テ ム)	情 報 ・ エ レ ク ト ロ ニ ク ス 学	情 報 ・ エ レ ク ト ロ ニ ク ス 学	機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	建 築 ・ デ ザ イ ン 学 科	計	シ ス テ ム 創 成 工 学 専 攻	計	有 機 材 料 シ ス テ ム 専 攻	物 質 化 学 工 学 専 攻	バ イ オ 化 学 工 学 専 攻	工 学 専 攻	応 用 生 命 シ ス テ ム 専 攻	情 報 科 学 専 攻	電 気 電 子 工 学 専 攻		機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	経 営 学 専 攻
概 況	卒業・修了 予定者数	129 (22)	62 (10)	65 (29)	1 (0)	74 (4)	70 (3)	129 (6)	28 (13)	558 (87)	41 (7)	41 (7)	82 (8)	40 (4)	29 (12)	20 (7)	34 (5)	36 (0)	61 (4)	10 (2)	312 (42)	911 (136)	
	就職希望 者数	20 (3)	22 (4)	30 (17)	0 (0)	38 (3)	33 (2)	56 (5)	14 (6)	213 (40)	21 (5)	21 (5)	68 (6)	33 (1)	28 (12)	20 (7)	31 (5)	36 (0)	56 (3)	10 (2)	282 (36)	516 (81)	
	自営希望 者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	進学希望 者数	103 (18)	37 (6)	33 (11)	0 (0)	33 (1)	35 (1)	67 (1)	12 (6)	320 (44)	19 (2)	19 (2)	10 (2)	6 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (4)	356 (50)
	その他	6 (1)	3 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	6 (0)	1 (1)	24 (3)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (1)	0 (0)	13 (2)	38 (5)	
概 況	就職内定者数	20 (3)	22 (4)	30 (17)	0 (0)	36 (3)	30 (2)	56 (5)	14 (6)	208 (40)	20 (5)	20 (5)	68 (6)	33 (1)	28 (12)	20 (7)	30 (5)	36 (0)	56 (3)	3 (0)	274 (34)	502 (79)	
	未内定者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (2)	8 (2)	15 (2)	
	内定率(%)	100.0	100.0	100.0		94.7	90.9	100.0	93.3	97.2	95.2	95.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	30.0	97.2	97.1	
	就職決定率(%)	76.9	88.0	93.8	0.0	87.8	85.7	90.3	87.5	87.4	90.9	90.9	94.4	97.1	100.0	100.0	100.0	88.2	100.0	91.8	30.0	92.9	90.5

[注] ( )内の数字は女子を示し内数である。就職内定率：就職内定者数÷(就職希望者数+自営希望者数)  
就職決定率：就職内定者数÷(卒業・修了予定者数-進学希望者数)である。

県内就職内定者数	8 (0)	5 (3)	4 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	6 (0)	1 (0)	26 (4)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (0)	40 (4)
県内就職内定率	40.0	22.7	13.3		2.8	3.3	10.7	7.1	12.5	25.0	25.0	5.9	6.1	0.0	0.0	6.7	0.0	1.8	0.0	3.3	8.0

# キャリアサポート室だより



## キャリアサポート室長 湯 浅 哲 也

を概観してみます。

本年度は初頭よりコロナ禍に見舞われ、社会の機能は著しい制約と停滞を強いられました。大学も例に漏れず、授業や学内行事などが大きな影響を受けましたが、とくに、就職活動に対しての影響は大きく、例年とは全く異なる対応を強いられました。以下では、本年度の就職活動を概観してみます。

まず、毎年3月1日から3日間にわたり約500社を招いて開催する合同企業説明会（山形大学工学部。県立米沢栄養大学。県立米沢女子短期大学の共催）が中止となりました。例年、就活生はこの説明会を本格的な就職活動へとモードを切り替える契機としているため、出鼻をくじかれた格好になりました。さらに追い打ちをかけるように、4月7日に発出された緊急事態宣言により、企業側の採用活動は停止し、学生は自宅待機を余儀なくされました。宣言解除後も県をまたぐ移動が制限されていたため、採用活動がオンラインで再開され始めたのは5月中旬以降でした。当初、企業も就活生もオンライン面接という初めての経験に戸惑いを見せておりましたが、6月を過ぎてからは徐々に順調な採用活動が行われるようになりました。それでも、昨年度までですと7月末時点で学部生では約80%、院生では約90%の内定率であるところ、本年度は学部生で50%、院生で70%程度でした。この時点ではリーマンショックの再来かと危惧されましたが、その後内定率は順調に推移し、12月末時点では学部生で91%、院生で95%とほぼ例年の数字に近づきつつあります。マスコミで騒がれているような、採用人数の大幅減や内定取り消しなどという事例は、当学部では今のところ報告されて

おりません。企業の採用担当者との面談でも採用意欲は相変わらず旺盛であり、来年度も、とくに理工系の就職に関しては、過度な警戒には及ばないと現段階では認識しております。

しかしながら、コロナ禍の終息を見るのはまだ当分先であろうことは察せられるところであります。キャリアサポート室では来年度、本年度のような不測の事態にも混乱を来さぬような万全の体勢を整える所存でおります。まず、合同企業説明会は3月1日から3日間にわたり、オンラインで実施することで準備を進めており、すでに400社を超える企業が参加を表明してくださっております。対面ではできないオンラインならではのサービスが提供できるよう工夫を凝らす予定です。就活開始の号砲となる合同企業説明会は、どのような事態になろうとも実施したいと考えております。また、当室では、エントリーシートの書き方や広く就職活動に関する悩みについての相談にキャリアカウンセラーが応じております。本年度前期はオンラインで、後期に関しては対面も可として、二刀流で実施してまいりました。来年度もこの二刀流を継承して、どのような事態にも対処できるような準備をしてまいります。さらに、インターンシップに関しましても、コロナ禍を契機に多くの企業はオンラインで実施するようになりました。これらの情報についても随時学生に周知できる体制を各学科の就職担当教員とこれまで以上に協力して構築してまいりたいと存じます。

現下の災厄はまだまだ予断を許さぬ状況ではありますが、当室としては、どのような事態になっても就活生に十分な情報とサービスを提供できるよう努力してまいる所存です。当室を積極的に利用されるよう、ご周知のほどよろしくお願いたします。

## 就職活動と後輩へのアドバイス



### 後輩へのアドバイス

私はB3の夏休みから就活を意識し始めました。といっても何をすべきか分からず、志望する業種も明確ではありませんでした。

私からのアドバイスは3つあります。1つ目は「とりあえず行動してみる」ことです。私の就職活動は「とりあえずやってみよう」の連続でした。私のようにやりたいことが分からない人はとりあえず色々なインターンシップに参加してみるといいと思います。いくつか参加しているうちに、自分がやりたいこととやりたくないことが自然と分かってきます。これからはオンラインが多くなるかもしれませんが、色々な会社の中に入れるのは学生の特権だと思うので楽しみながら参加してみてください。

2つ目は「キャリアサポートセンターを活用すること」です。

### 機械システム工学科 4年 山路祐里香

コロナで混乱した中でも就活がうまくいったのはこれが大きかったと思います。先輩やネットから情報を得ることもできますが、何年も就活生とやり取りしている指導員の方の添削や面接練習はとて為になります。

3つ目は「早めに準備すること」です。当たり前のことではありますが、今年は特にこれが大事だったと痛感しました。インターンに参加しておくことで早期選考を受けられることもあるし、余裕のあるうちに自己分析やSPIの勉強をしておくことでイレギュラーにも対応できると思います。

これから就職活動をする人は例年通りにいかず不安もあるかもしれませんが、みんな同じだと思って落ち着いて頑張ってください ^^



### 就職活動と後輩へのアドバイス 機械システム工学専攻 2年 渡邊 雄大

私の就職活動について簡単にお話させていただきます。

私は、M1の6月ごろから就職活動を開始しましたが、様々な業種に興味があったため、より深く知るために幅広い分野の説明会やインターンシップに参加しました。

その中でも、M1の夏休み、2週間のインターンシップに参加した企業に、複数回の面接や面談、筆記試験を経て内定を頂きました。

私が就活の中で大切にしたこと、そして皆さんへのアドバイスは「挑戦すること」です。

企業調べをしていると、「すごく興味のある会社だけど、自分には厳しい」ということがあるかと思います。私は、そこで応募を迷うのであれば、挑戦すべきであると思います。

就職活動には、面接官との相性、試験や面接の設問内容など、運

の要素が大きく影響します。どんなに対策をしても、運が結果を左右することもあります。しかし、行動を起こさなければ、その運を試す機会もありません。

堅実で現実的な選択肢を用意することはもちろん大切です。そのうえで、少しでも希望があるのなら、その会社で働きたいという想いがあるのであれば、挑戦してみてください。

「人間は、行動した後悔よりも、行動しなかった後悔の方が深く残る。」

これは、私が就活中に常に心に留め置き、自らの行動の指針とした言葉です。

今年の就職活動は、例年と比べて状況も変わり、厳しいものになるかもしれませんが、後悔の残らないよう、体調にも気を付けてベストを尽くせるように頑張ってください！



## 山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者
- 工学部に勤務する教職員
- 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生  
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成
- 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成
- その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 会長
- 副会長
- 理事
- 監査
- 幹事

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。

- 会長は、会員の推挙による。
- その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員任務は次のとおりとする。

- 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
- 理事は、本会の重要案件を審議する。
- 監査は、本会の会計を監査する。
- 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと  
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

- 会務の報告
- 事業計画に関すること。
- 予算及び決算に関すること。
- 会則の改正に関すること。
- 会長の推挙に関すること。
- その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるとし、保護  
者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

- 会員名簿
- 役員名簿
- 会議録
- 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育後  
援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

## 工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費は、  
次のとおりと定める。

- 学部学生の保護者 26,000円
- 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円
- 本会の趣旨に賛同する者

## 令和元年度 一般会計収支決算書 及び 令和2年度 一般会計収支予算書

### 収入の部

(単位:円)

項 目	令和元年度			令和2年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	22,633,000	20,000,500	△ 2,632,500	21,567,000
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	2,000	3,302,107	3,300,107	2,000
繰 越 金	793,290	793,290	0	3,785,047
合 計	23,428,290	24,095,897	667,607	25,354,047

### 支出の部

項 目	令和元年度			令和2年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,313,400	1,319,000	△ 5,600	1,252,100
学部学生指導 補助費	595,200	595,200	0	569,600
学科行事等 補助費	718,200	723,800	△ 5,600	682,500
2 一般厚生補導費	4,329,500	3,834,204	495,296	3,795,000
国際交流関係 補助費	1,000,000	461,281	538,719	500,000
TOEIC-IP テスト補助費	1,000,000	985,158	14,842	1,000,000
学務関係補助費	1,000,000	1,134,662	△ 134,662	1,000,000
保健管理関係 補助費	30,000	20,140	9,860	30,000
理容部運営 補助費	350,000	282,923	67,077	350,000
基盤教育事業 後援費	949,500	950,040	△ 540	915,000
3 進路対策補助費	20,000	7,630	12,370	20,000
4 学生研究助成費	800,000	650,660	149,340	800,000
5 課外活動補助費	1,000,000	209,850	790,150	1,000,000
6 一般体育設備等 補助費	50,000	0	50,000	50,000
7 厚生施設等環境 整備補助費	500,000	58,960	441,040	500,000
8 研修行事等関係 補助費	150,000	140,000	10,000	150,000
9 学部渉外関係 補助費	500,000	841,726	△ 341,726	500,000
10 大学行事補助費	2,000,000	1,475,854	524,146	2,000,000
11 運 営 費	3,515,000	4,080,466	△ 565,466	4,015,000
会 報 費	800,000	924,526	△ 124,526	800,000
会 議 費	150,000	183,310	△ 33,310	150,000
通 信 費	10,000	12,278	△ 2,278	10,000
事 務 費	900,000	899,708	292	900,000
旅 費	50,000	0	50,000	50,000
地区別説明会費	1,500,000	1,960,104	△ 460,104	2,000,000
学園都市推進 協議会費	100,000	100,540	△ 540	100,000
雑 費	5,000	0	5,000	5,000
12 積 立 金	0	0	0	0
13 施設協力金	8,705,000	7,692,500	1,012,500	8,295,000
14 予 備 費	545,390	0	545,390	2,976,947
合 計	23,428,290	20,310,850	3,117,440	25,354,047

# 山形大学工学部保護者懇談会 今年度(2020年度)実施報告と来年度(2021年度)開催予定

保護者懇談会は、全国を3ブロックに分けて開催するようになってから、今年度で10年目となりました。進学・就職に関する講演や教員と個別に相談する時間も設けています。保護者同士の交流の場としても大変好評をいただいておりますので、ぜひこの機会にご参加くださいますようお願いいたします。

## ■今年度 実施報告

地域	開催日	開催会場	申込人数
関東・甲信越地区	9/5(土)	オンライン開催	120名
北海道・東北地区	10/10(土)	オンライン開催	172名
中部・西部地区	11/1(日)	オンライン開催	49名

## ■来年度 開催予定

地域	開催予定日
関東・甲信越地区	9月4日(土)
北海道・東北地区	10月9日(土)
中部・西部地区	11月7日(日)

## お知らせ

### ◎各種相談の窓口

#### 学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、  
こころの悩み

#### 学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、  
科目等履修生、TA

#### 学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

## 令和3年度工学部年間予定表

### 前期(令和3年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(木)～4/4(日)

授業期間：4/15(木)～7/20(火)

(定期試験・まとめを除く)開学記念日：10/15(金)

定期試験・まとめ：7/16(金)、7/21(木)

7/26(月)～7/30(金)

補講期間：8/2(月)～8/5(木)

夏季休業：8/7(土)～9/30(木)

9月学位記授与式：9/24(金)

### 後期(令和3年10月1日～令和4年3月31日)

授業期間：10/1(金)～12/24(金) 定期試験・まとめ：1/27(木)

10月入学式：10/1(金)

1/31(月)～2/4(金)

2/7(月)

冬季休業：12/25(土)～1/10(月)

補講期間：2/8(火)～2/10(木)

授業期間：1/11(火)～1/28(金)

2/14(月)～2/18(金)

(定期試験・まとめを除く)

2/21(月)

春季休業：2/22(火)～3/31(木)

学位記授与式：3/21(月)

### 【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

保護者懇談会の開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。